

つくしだより



令和2年11月号

東京つくし会会長会議報告

都連理事 大山 竹彦

2020年10月2日(金)東京つくし会会長会議は29家族会36名の参加を得て、東京都障害者福祉会館において開催されました。

眞壁会長からは新型コロナウイルス拡大の中で2020年評議会を書面開催に切り替えた事等の報告もあり、コロナ禍から新しい活動形態への家族会の理解と協力への御礼、又本日各々の家族会の発表を通して、活動をどうもっていくかの話し合いを期待する、の挨拶がありました。

第一部東京つくし会理事会報告

I、2021年度東京都予算に対する要望活動について 植松副会長

今回は昨年と違いコロナ禍の中のこともあり、理事中心で取り組みました。要望の考え方は

①当事者が地域で安心して暮らせるための住まいの確保と経済的支援
②当事者の自立のための就労について

③地域の未治療者、治療困難者への保健医療の充実

④家族(親)が安心して日常生活を送

れるための一時避難所確保

⑤安定した財源で家族会活動が出来るために

⑥精神疾患教育を小学校、中学校からの実施、です。

要望に当たっては重点項目を選び交渉を進めております。

II、ブロック相談員養成講座・交流会報告 本田副会長

例年の通り、ブロック毎に活動しましょう。

①10月31日10:00~16:00多摩ブロック相談員養成講座、交流会(府中ふれあい会館 24名まで)

②11月8日10:00~16:00西ブロック交流会、相談員養成講座(大田区障害者サポートセンター27名で)。

③11月下旬から12月上旬東ブロック養成講座・交流会計画中です。

III、みんなねっと東京大会について 轡田副会長

新型コロナウイルスの状況によっては、急遽中止もあり得る事を考え、例年とは違う方針で開催する。旅行社を使わない、受付集金は東京つくし会で行う等々報告があり、これからも機会を捉え連絡いたします。

第二部 家族会活動報告

①文京区家族会前山会長 一ヶ月おきに勉強会を開いております。コロナで思うように出来ず、お休みや人員制限もありましたが、福祉士の協力もあり、お母さんの不安軽減が出来ました。

②練馬すずしろ会松沢理事長 コロナ試練でなかなか会場の確保が大変でした。皆様の知恵を貸してください。

③調布かささぎ会江頭会長 相談会を茶会に切り替え、社協の部屋を借りました。

④杉並家族会山本会長 コロナの中でも年間活動続けたい、出来ることをしましょう。

東京つくし会本田副会長より、原点に戻り、初心に戻って活動しましょう。と締め言葉でした。



多摩ブロック相談員養成講座を終えて

都連副会長 中住 孝典

10月31日(土)午前、府中市立ふれあい会館にて相談員養成講座が開催されました。17家族会25名の参加と講師助言者として代々木の森診療所の羽藤医師も参加して下さいました。コロナ禍の中多くの方の参加がありその熱意に深く感謝いたします。事例三題に対する報告と意見交換がなされました。

①「双極性障害の夫の精神的、経済的DVに耐えて」(府中梅の会) ②「摂食障害の息子への対応」(日野いずみ会) ③「医療機関につなげたい」(昭島家族の集いアットホームぽぼ) どの相談内容も深刻であり、その相談に関与されている家族相談員の方が共感を寄せながら熱心に粘り強く相談に対応されている様子がうかがえました。しかしその中で相談に対応する側の留意点も学ぶことができました。それは何が問題で相談内容は何かという「主訴の明確化」がとても大切ということ。とかく持ち込まれる相談内容は相談する側も混乱しているため話が多岐にわたり何を相談したいのか、何をどうしたいのか焦点が絞れなくなっている場合も少なくありません。相談を受ける側はその点も踏まえ全てを受け止めつつも主訴の明確化を客観的に行っていくという事が求められます。そして家族相談会のフィールド(領域、範囲)の

明確化であり家族相談会がどこまで対応するのか(できるのか)という線引きです。家族相談会で完結できる場合もありますが、完結できない場合もあります。その場合どこと連携しどこにつないだらよいのかということ事も考え対応をしていく事も必要になります。家族会だけで抱え込みストレスフルにならないためにも、また家族相談会が有効な相談機能としての役割を高めていくためにも「つなぐ」という事が相談技術としても大切となります。それと安易なジャッジはしないで。他にも多くの示唆がありました。紙面の関係で申し訳ありません。最後に時間のため四題目「医療機関と主治医の対応」(むさしの会)の検討ができませんでした。次回という事で深くお詫びいたします。



2020年度多摩地域ブロック会議報告

都連理事補佐 池田 正

10月31日(土)第一回多摩地域ブロック会議が、府中ふれあい会館で、行われた。20単会30名の参加でした。

◆都連からの報告

① 2021みんなねっと東京大会実施
来年10月7日(木)～8日(金)早稲田大学大隈講堂等で開催予定。但しコロナ禍再拡大の場合は、中止の可能性もある。

② 2021年度東京都予算要望について
東京つくし会の懸案事項を要望し、今後の具体的な活動を展開する。

③ 2020年度家族研修会について
来年3月5日(金)専門家を招き、家族会相談活動の一層の充実を図る。

④ 各単会からの報告

・小平市けやきの会より、心身障害者福祉手当に關し、精神障害者にも対象を広げ、市に對して、都手当相当も含め、市手当の支給検討を請願した旨の説明。

・稲城市稲穂会より、東京ベルデイが、製菓大手のヤンセンファーマと協力し、スポーツを通じて、「心の病のノーマライゼーション」をサポートする活動をスタートした旨、紹介。

◆協議事項

① 家族一時避難場所について

調布市かささぎ会より、マンパワー面で、既存の借り上げ施設での活動が困難なため、今後の対応を検討中

② 各単会のコロナ対応と家族会活動

三密等コロナ対応に苦慮しながら各単会活動を継続している旨、発言多数。

③ 各市町村への予算要望活動について

各単会の実情に合わせ、市町村に提出。

④ 次回ブロック会議の日程について

来年2月27日(土)か3月13日(土)共に府中ふれあい会館午後1時半より。

「FHMの会」定例会訪問

都連会長 眞壁 博美

10月17日(土)の午後、福生市福祉センターで「FHMの会」の定例会が開催されました。コロナ禍で、どこの家族会からも理事の訪問要請が無かったのですが、今年度初めての家族会訪問でも楽しみにしていました。当日は、生憎の本降りの雨に冬のような寒さでした。それにもかかわらず、14名の会員さんが参加されました。

前半は、私が、「東京つくし会の最近の活動報告」と「立川麦の会の方で、引きこもりから脱却された方の実例」をお話ししました。休憩を挟んで後半は、私の話に対する質疑だけでなく、皆さんの率直な悩みなどが語られ、充実した交流の場になりました。16時で終了となりましたが、時間のある方がその場に数名残られ、ざつくばらん話し合いが持てました。

私の引きこもりの話を簡単に紹介します。17歳の時に統合失調症になった現在45歳の男性ですが、20年近く引きこもり、昼夜逆転の生活が続いていましたが、病院の「就労プログラム」に参加したことがきっかけとなり、一般就労して5年になります。その男性によると「引きこもっていた時、外の世界に興味はあったが、自信が無かった」そうです。どのように自信をつけたかというところ、ラジオに投稿して、たまに自分の投稿が採用

され、読み上げられたこと。また、立川麦の会の「味噌づくり」や「うどん店」の手伝いをした時、周りの人たちが優しく接してくれて怖い思いをしなかったことだったようです。何より、親から「就職しろ！」と一切言われなかったことがとてもありがたかったそうです。

FHMの会では、8月から9月にかけて会員実態調査アンケートを実施し、その結果を基に、要望をまとめて、福生市、羽村市、瑞穂町との要望交渉をしています。地道な活動をねばり強く続けておられる報告を受け、大変心強く思いました。

みんなねっと理事会(WEBベース)開催

都連理事 松沢 勝

みんなねっと2020年度第5回定例理事会が、WEB会議ベースで10月21日午前10時30分～午後15時に開催された。

出席者は理事15名、監事2名の合計17名。

第1号議案…事務局運営体制に関する件
業務時間としてコロナ対応で午前9時30分～16時30分(7時間)とする。この1時間の時間短縮措置を本年度末(2021年3月末)迄とする。

第2号議案…事務所移転に関する件

東京都都市再生計画による退去が予想されていることと、事務所家賃約13万円の削減も考慮し、池袋地区以外にも目を向けて、杉並

区家族会会長所有の空き物件(杉並区松庵)家賃10万円程度に決めたい。

第3号議案…全国大会開催に関する件

2021年の東京開催の次の開催地を決めたい。候補先として、「広島、埼玉、京都、神奈川、北海道、大阪、福岡」が挙がっている。

2021年開催の東京大会につき、眞壁会長より次の説明があった。

・コロナ禍での開催で、状況次第では急遽中止もあり得ることを踏まえ、例年とは違う方針で開催する。即ち、旅行社を使わない。弁当は手配しない。懇親会は開催しない。大会が、コロナ禍で中止になっても次年度への延期はしない等。

以上の3議案につき採決した結果、全会一致で承認された。

次に、代表理事会執行状況報告につき報告あり。

午後に入り、協議事項2つにつき討議した。

【協議事項1】 賛助会員拡大プロジェクトチームの仕切り直し設置

・2020年9月で賛助会員が一万名強、このままでは来年一万を切ってしまう。賛助会員拡大プロジェクトチームを再編し、仕切り直したい。

【協議事項2】 政策委員会からの提案

3つの提言があり、岡田理事長より議案書、事前資料に沿って説明された。

「電話相談から」つながる家族

都連副会長 本田 道子

東京つくし会では毎週水曜日の11時から16時まで理事が担当して電話による相談を行っています。

専門家ではない私達です。医学的なこと、専門的なことには当然お答えできないのですが、この精神科の病気になるってしまった家族や当事者の苦しみや哀しみを世界中で最も理解できるのは私達ではないか、と思うのです。

もちろん一番辛いのは病気になるた本人です。その本人といつも共に暮らす私達にはその辛さや哀しみはより一層深い、のではないかと、この頃は相談電話を受けていてより強く感じるようになりました。

患者・家族に必要な情報提供がすぐになされているとは思えない状況がまだまだ見られます。私達には患者や家族の立場からの情報提供ができます。これは行政や医療側には決してできない強みです。

また先輩家族の病気の症状や薬の体験談は大変に貴重で大いに参考になるものです。回復への近道は家族会とつながり正しい知識と情報が一番の近道、なのだと思います。めめているこの頃です。



☆ 賛助会員 (敬称略) ☆

匿名希望	2000円
匿名希望	2000円
小島 頼子	3000円
田沢 幸子	2000円

ありがとうございます。

☆ 講演会のお知らせ ☆

○12月12日(土)

「急性期の幻聴・妄想、そして病識」

講師 精神科医・大泉病院社会医療部長

山澤 涼子氏

会場 新宿区立障害者福祉センター

主催 新宿フレンズ ☎03-3987-9788

○12月14(月) 13:30～16:00

「精神科で働く看護師から見た患者さんと家族、そして社会」

講師 井之頭病院看護師 宮子 あずさ氏

主催 世田谷さくら会 ☎03-3308-1679

会場 代田区民センター多目的室

先着100名

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。



編集後記

私は仲間たちと文学者の足跡をめぐる散歩を時々します。今回は一葉の作品「たけくらべ」を読んで歩いたコースを紹介します。地下鉄三ノ輪駅からスタート。すぐ近くに投げ込み寺と言われる「浄閑寺」があり、よくここを訪れた荷風の文学碑があります。

「たけくらべ」の最初の文章の『八月廿日は千束神社のまつりで、』という「千束神社」を経て「一葉記念館」に向かいます。入り口には一葉記念碑や、佐々木信綱の筆になる一葉たけくらべ記念碑があります。

記念館で一葉の生涯や作品を確認して、近くの「旧居跡」に向かいました。一葉は明治26年7月に本郷から転居し、ここに荒物屋を開業しました。『三島様の角を曲がりてより見ゆる』とある「三島神社」を過ぎ、『春季の大運動会とて水の谷の原にせし事ありしが』とある「朝日弁財天」を過ぎて、「大音寺」に向かいます。大音寺は、真如の寺「蓮華寺」のモデルになった寺で、『真如』のモデルになった人の墓もあります。

たけくらべは「鳳神社」の西の市で終わります。鳳神社には、一葉が思い人半井桃水にあてた書簡を碑にしたものがあります。

浅草に向かう途中に、「池波正太郎記念文庫」があります。最後に浅草の神谷パーで電氣ブランを飲んで疲れを癒しました。

都連副会長 轡田英夫